

花かがみ 小笠原誓

小笠原誓

花かがみ

HANA-KAGAMI

発行人/小笠原 誓 発行所/名古屋園芸株式会社
〒460-0005 名古屋市中区東様2-18-13 tel.052-931-8701
http://nagoyaengei.co.jp/

25 4

名古屋園芸



柵下牡丹花壇に遊ぶ女性 (仮題)

鳥文斎栄之
寛政3年(1791)~文化元年(1804)

鳥文斎栄之(ちょうぶんさい・えいし1756-1829)は、旗本出身という異色の出自をもち、美人画のみならず幅広い画題で人気を得た浮世絵師。天明~寛政期(1781-1801)に、同時代の喜多川歌麿のライバルとして活躍した。長身で楚々とした独自の美人画様式を確立した。

笑顔あふれる母の日



創刊号(第1号)1982年11月15日発行

今月号で名古屋園芸の「花かがみ」は通巻500号を迎えることとなりました。創刊号(第1号)は1982年11月15日に発行された「花かがみ」の前身、「題名のない園芸ニュース」でした。ちょうど私が入社した年でもあり、編集の様子を今でも鮮明に覚えています。

タイトルは当初なかなか良い名前が見つからず、お客様から名付けていただいた名前でもスタートしましたが、やがて「名古屋園芸ニュース」となり、1991年9月に現在の「花かがみ」という名前に変更されました。創刊から約10年間は製版技術が社内になく、外部に依頼していましたが、90年代からはパソコンを活用したDTPが可能になり、現在に至るまで社内で編集を続けています。原稿は全て社員が執筆、写真も社員が撮影しています。季節の植物や育て方などの情報を発信し続けています。

表紙の絵は、黒田敏子画伯や植田由喜子画伯に担当していただいたこともありました。また、雑花園文庫のボタニカルアートも何度も登場しました。さらに途中から始まった「花の博物館」コーナーは、園芸の歴史資料を紹介し、今月で第351回を迎えます。

月刊誌として園芸店で500号もの継続を果たせたのは、ひとえにご愛読くださるお客様のおかげです。心より厚く御礼申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

=花の講座のご案内=

講座番号11『はなやか ヒオニーアレンジメント』
5/24(土) 10:30~11:30

美人の代名詞としても有名な芍薬の花を、ふんだんに取り入れたアレンジを作ります。この季節ならではの華やかで豪華なアレンジが出来上がります。
*材料費:5,500円(税込)
*講習費:1,100円(税込)
*講師:山田 幸子



講座番号28『アジサイの春色寄せ植え講座』
4/28(月) 10:30~11:30

初夏のイメージがあるアジサイですが、実は春の出回りが多いのです。今年オススメのアジサイを春色に寄せ植えします。明るい日陰や室内でも楽しめるコツもお話します。
*材料費:6,600円(税込)
*講習費:1,100円(税込)
*講師:河野 肇謙



◇お申し込みは
花の講座専用電話 TEL:052-937-3391
受付時間 月~金曜日 10:00~17:00
Webからもお申込みできます!

名古屋園芸 検索

こちらからもどうぞ



花かがみ 通巻500号記念企画 名古屋園芸 ワンコインの名品

花かがみの通算500号を記念して、名古屋園芸が「名品」と自信をもってオススメできる植物を、特別に「ワンコイン」でご提供します。

ワンコインと侮ることなかれ!ワンコインでも楽しみの多い植物たちを、各部門でピックアップしてご紹介します。それぞれの植物たちが持つ、「これぞ名品!」と言われるべくそれぞれのストーリーも合わせてお楽しみください。

週替わりで限定数のご提供になりますので、ぜひこの機会に名古屋園芸がセレクトする「ワンコインの名品」を楽しんでみてください。



- 4/8~ 洋ラン
- 4/15~ 鉢花
- 4/22~ 切花
- 4/29~ 観葉植物

*それぞれ入荷数が限られますので、品切れの場合はご容赦ください。ぜひ早めにチェックしてみてくださいね。

information

おいしい楽しいキッチンガーデン ハーブと夏野菜 はじまります!

春ガーデニングのお楽しみのひとつといえば、普段の食生活を豊かにしてくれるハーブや夏野菜の植え付け作業ですね。トマトやキュウリ、ハーブのバジルやパセリなど、この時期に植えておけば夏中お手軽にキッチンガーデンを楽しむことができます。初めての方でも育てやすいのも魅力の一つです。

ハーブや夏野菜の植え付け時期はとっても重要!早すぎたり遅すぎたりせず、良い時期に植えることが何よりの成功の秘訣です。

名古屋園芸ではハーブ苗は4月中頃から、夏野菜の苗は4月20日過ぎの植え付け適期が始まるタイミングで入荷していきます。5月のGWくらいが一番植付けに適していますので、それを逃さずに今年のキッチンガーデンをぜひ成功させて、たくさんおいしく召し上がってくださいね。



① 絵をかけたつるの事
② 「獅子」にあらたるぼたん」とあり獅子の絵には牡丹を活けると書かれている



中国から日本への牡丹の渡来時期については、最も古い資料では『出雲国風土記』(733年)で「牡丹」の記載が見られますが、「諸の山野に在る草木」の一部として挙げられているため、現在のポタンとは異なり、ヤブコウジの一種とされています。空海が806年に中国から持ち帰ったとの説もありますが、根拠は不明です。また、『万葉集』や『古今和歌集』には牡丹を詠んだ和歌は見当たりません。「本草和名」(918年)では、「布加美久佐(ふかみくさ)」や「世末多知波奈(やまたちばな)」という和名が記され、こちらもヤブコウジと考えられています。

平安時代中期には、『蜻蛉日記』や『枕草子』に牡丹の記載があり、草花として觀賞される様子が描かれています。このころから日本人が牡丹を觀賞用に栽培したことがうかがえます。室町時代の『仙伝抄』には、座敷飾りや立て花における牡丹の活用法が詳述され、特に四月に牡丹を飾ることが記されています。また、獅子の絵の前に牡丹を活ける習慣があり、獅子と牡丹が組み合わされる理由としては、獅子の唯一の弱点である「獅子身中の虫」を牡丹の露が取り除くと信じられていたためだとされています。

花の博物館 第351回

中世に渡来した牡丹と 花伝書に見られる牡丹の飾り方

小笠原 誓